

令和4年度学校自己評価システムシート (県立浦和高等学校 定時制課程)

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く誠実な青年を育成する
--------	---------------------------

重点目標	1 生徒個々に対応した分かりやすい授業を展開し、進学に向けた発展的な学習を組織的に取り組む。 2 キャリア教育・進路指導を組織的に行うとともに、外部教育機関と連携し、生徒の進路意識を向上させる。 3 定時制の生徒に合致した「主体的・対話的で深い学び」による授業を通じ、能動的な学びを身につけさせ、生きる力を育む。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、地域に開かれた学校づくりを進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 2 8 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・中学校を不登校だった生徒が多く在籍しており、義務教育の学習内容が十分に身につけていない生徒が多く見られる。そのため、生徒個々に対応した分かりやすい授業を展開し、学びなおしを含めた基礎学力の向上とともに、進路実現を見据えた恒常的な声かけや指導が必要である。	・生徒の授業や学校生活に対する満足度 ・授業改善に向けた各教諭の取組状況 ・外部指導者等を活用した細やかな学習支援	①生徒理解を深め、より分かりやすい授業への改善に努める。また、学習サポーターと連携し授業支援を有効的に実施する。 ②ICTを活用した授業の支援を積極的に行い、必要に応じて授業動画の作成を行う。 ③多様な文化を持つ生徒への対応のため多文化共生推進員やオンライン教室を活用する。	①アンケートの「授業理解度」及び「授業満足度」の肯定的意見が7割以上。 ②全学年でICTを活用した授業を展開する。 ③始業前の日本語勉強会、オンライン日本語教室への参加率向上。	①アンケートによる「授業理解度」の肯定的意見が80%を上回った。 ②全学年でICTを活用した授業を展開し、授業改善に取り組んだ。 ③日本語教室ではしばしば欠席がみられた。	A	今後も外部指導者の支援やICTを積極的に活用し、不断の授業改善に取り組む。日本語能力検定の受験に向け、より効果的な日本語教室が実施できるように多文化共生推進員との連携を強化する。
2	・様々な理由により生徒の進路に対する意識は低く、将来の夢ややりたいことを見つけられない状況にある。生徒の進学・就職支援を充実させ、進路意識の向上を図るとともに、将来の夢や具体的な目標を持たせるべく様々な挑戦の機会を作り、進路実現につなげる。	・4年間を見通した系統的なキャリア教育・進路行事の設定と実施 ・進路意識と進路決定率の向上 ・キャリア教育における積極的な外部の力の活用	①外部機関との連携により、進路講演会・SST(ソーシャルスキルトレーニング)・社会体験活動や短期間の職業体験(インターシップ)の機会を設定する。 ②NPO法人等の外部教育力を活用したキャリア教育を推進し、卒業生による進路講演会を実施する。 ③自発的な取組ができるよう、「浦定チャレンジ」を推進する。	①アンケートの「人間関係」の肯定的意見が8割以上。 ②アンケートの「進路意識向上」の肯定的意見が7割以上。 ③全生徒がアンケートの「浦定チャレンジ」を記述する。	①「人間関係」の肯定的意見が80%を上回った。 ②「進路意識」の肯定的意見が80%を上回り、就職希望者の内定率が100%であった。 ③アンケートの「浦定チャレンジ」に記述がない生徒が複数みられた。	A	社会性を身につけさせることを重視したキャリア教育を充実させるため、外部機関との連携をより一層進める。より多くの生徒が自身の夢や具体的な目標を持ち、さまざまな挑戦ができる環境づくりを推進する。
3	・基礎学力の定着と、身に付けた学力をどのように活用するのかが本校の課題である。生徒個々の学力や、理解の深まり方も差が大きい。生徒の心理的問題や複雑な家庭環境に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携が必要不可欠である。	・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の実践 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した個別面談の実施	①「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業を実施する。 ②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し教員向け研修会を実施する。また生徒、保護者との個別相談を充実させる。	①全教員が「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を各学期に1回以上実施。 ②専門職のアドバイスを参考にした、時期・状況に適した面談を展開する。	①「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を各学期に実施した。 ②専門職を積極的に活用し、各学期に個別面談や家庭訪問を実施した。	A	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の回数を増やす。個々に対応した指導相談体制の更なる充実に向け、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携をより深める。
4	・保護者会への参加希望数は多いが、昨年は全校生徒の4分の1にあたる参加があった。今後も引き続き保護者が参加しやすい時期や内容を検討していくことが必要である。感染症対策で保護者会が実施出来ない場合は当日の資料を、生徒をとおして配布する等の工夫が必要である。	・保護者や県民の見やすい学校HPの作成と積極的な更新 ・徹底した感染症対策を施した行事の実施 ・安全・安心な給食の実施	①学校HPの更新と内容の改善により、積極的な情報発信をおこなう。 ②保護者参加の行事を、徹底した感染症対策の下で実施することにより、本校の教育活動への理解を深めてもらう。 ③徹底した感染症対策を施した、安心・安全な給食の実施による食育を充実させる。	①HP更新回数目標(50回) ②保護者会参加者アンケートでの肯定的意見が8割以上。 ③給食喫食率9割以上、アンケートによる給食満足度を8割以上。	①2月28日現在HPの更新回数が55回であった。 ②アンケートの「保護者会参加」への肯定的意見は目標に届かなかった。 ③給食喫食率は90%以上であったが、アンケートの「給食満足度」は目標に届かなかった。	B	保護者に向けた情報発信を増やし、より魅力のある保護者会を計画する。コロナ禍による制限が緩和する傾向にある中で、これまでと同様の安心・安全な給食の実施とともに、魅力の強化に力を入れる。

学校関係者評価
実施日 令和5年3月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等
8割以上の生徒が授業を理解できていると回答したことは素晴らしい。日本語を母語としない生徒に対しての指導は、様々な制約もあり大変であると思うが、多文化共生推進員など外部の力を活用して、これからは細やかなケアにあたってほしい。
就職希望者の全員内定が実現できたことは、非常に素晴らしい。卒業生による講演会は、今年度の実現はかなわなかったようであるが、在校生にとっても非常に良い効果が期待でき、意識も変わってくるので、来年度は実現が望まれる。
コロナの影響により生徒のメンタル不調が増えている状況にある中で、生徒の心のケアはより重要度を増しているため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した指導相談体制をより充実させてもらいたい。
コロナ禍の影響で保護者対象の給食試食会が実施できなかったのは残念である。生徒たちが普段食べているものを知るのには非常に良いことなので、来年度はぜひ実現させてもらいたい。また、保護者が生徒とともに参加する行事の実現が望まれる。